

指定管理者評価シート

事業名	藤野野外スポーツ交流施設運営管理費	所管課(電話番号)	スポーツ局スポーツ部施設課(211-3045)
-----	-------------------	-----------	-------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	藤野野外スポーツ交流施設	所在地	南区藤野473番地1
開設時期	平成13年12月27日	延床面積	1,840.82㎡
目的	市民の心身の健全なる発達及び体育の普及振興を図るため		
事業概要	スポーツ活動の場の提供、スポーツ教室等の開催(自主事業)		
主要施設	屋外フィールド(冬季ゲレンデ)、リフト設備(3基)、リユージュコース、コアハウス		
2 指定管理者			
名称	Fu'sコンソーシアム札幌		
指定期間	平成28年4月1日～平成32年3月31日		
募集方法	公募 非公募の場合、その理由:		
指定単位	施設数: 1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	施設維持管理業務、施設開放業務(利用料金制度)、スポーツ普及振興事業		
3 評価単位			
	施設数: 1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 平成29年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価												
1 業務の要求水準達成度															
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>▼ 施設の設置目的である「市民の心身の健全なる発達及び体育の普及振興」を図り、札幌市スポーツ推進計画において掲げられた「週1回以上スポーツを行う市民の割合を65%（ウインタースポーツの実施率は25%）」とするため、利用者及び地域住民のニーズに即したプログラムサービスの提供や透明性の高い管理運営等を基本方針として定めた。</p> <p>併せて、信頼性、安全性、快適性の向上を図るとともに、3つの重点方策「平等利用と法令の遵守」、「行政課題への対応」、「地球環境への配慮」を推進した。</p> <p>▼ 施設の地域拠点性や施設設備の特性を活かし、施設の効用を最大限に発揮できるよう、管理運営水準の維持向上及び管理経費の縮減に向けた効果的な管理運営を行った。</p> <p>また、関係競技団体との連携強化を図り、スポーツ参加の機会拡大、選手の強化、指導者の育成の場として四季を通じた利用促進を図った。</p> <p>▼ コンソーシアム代表団体（さっぽろ健康スポーツ財団）の、利用者サービスの向上に戦略的に取り組む「成長戦略」と、公共サービス提供者としてサービスの提供を持続するために必要な収益の確保及び組織づくりに取り組む「経営基盤の強化」を2本の柱に掲げ、「安全・安心の追及」や「お客様満足度の向上」など、7つの戦略プランと13のアクションプランを実行し、安全で快適な施設運営を行うとともに、スポーツを楽しむ機会、環境の充実と健康づくりを推進した。</p> <p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>▼ 公共サービス従事者の基本原則である人権尊重と公平性の理念、施設の設置目的や位置づけ、関係する条例等について、全スタッフの理解のもと、適切な運営を行うことを方針として体制を整備した。</p> <p>▼ 各施設の利用受付、使用の承認・不承認、利用料金の收受、還付などに関する手続きは、札幌市体育施設条例、同施行規則等に準拠して公平に行った。</p> <p>▼ 統括責任者は、人材教育の責任者として、施設の職員がOJTや勉強会を通じて、責任と自覚をもって業務にあたることで、管理施設の平等性と公正性が保たれているかを管理監督した。</p> <p>▼ 館長（施設責任者）に障害者差別解消法兼サービス介助基礎資格検定を受講させ、職員へのOJTを実施した。</p>	<p>藤野野外交流施設の施設の管理運営に係る基本方針と重点方策を明確にし、指定管理の各業務の中で、各取組みの着実な達成を推進した。</p> <p>併せて、管理運営に関わる中・長期的なプランについては、中期経営計画のローリングと進捗管理を行い、その実効性を高め、管理運営業務全般の水準を向上させた。</p> <p>施設の特性上、夏期、冬期間を通じて、不特定多数の方の来場が多い。また、冬期間は、近年、外国人の利用者も増加している。そのため、性別や障がいの有無だけでなく、国籍、宗教などにも配慮して平等利用を確保する必要があり、統括責任者及び館長（施設責任者）が率先して、公共サービス従事者として職員の自覚を促す教育・指導を徹底した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> 基本方針と重点方策を意識し、各業務の点検と管理に取組み、徹底した管理運営を行っている。また、中期経営計画のローリング及び進捗管理により、達成状況を意識することで更なる向上に努めている。 </td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 施設責任者が資格取得に努めたことは、施設職員の平等性・公平性に対する意識向上につながるものと判断できる。 </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	基本方針と重点方策を意識し、各業務の点検と管理に取組み、徹底した管理運営を行っている。また、中期経営計画のローリング及び進捗管理により、達成状況を意識することで更なる向上に努めている。				施設責任者が資格取得に努めたことは、施設職員の平等性・公平性に対する意識向上につながるものと判断できる。			
A	B	C	D												
基本方針と重点方策を意識し、各業務の点検と管理に取組み、徹底した管理運営を行っている。また、中期経営計画のローリング及び進捗管理により、達成状況を意識することで更なる向上に努めている。															
施設責任者が資格取得に努めたことは、施設職員の平等性・公平性に対する意識向上につながるものと判断できる。															

▼ 年齢や性別などによって、合理的な理由なく利用の制限や不当な差別的行為を発生させないための指導を徹底し、体制づくりを行った。
また、利用者間のトラブルを発生させないよう、職員の巡回を強化し、利用者への積極的な声掛け、利用ルールの周知等により、利用マナーの向上を図った。

▼ 障がいのある方への配慮のガイドラインを策定・運用し、不当な差別的取扱いの禁止と合理的配慮の提供についての具体例を示し、適切な対応を徹底した。

▼ 筆談具やコミュニケーション支援ボード、タブレットPCなどを配置し、コミュニケーションのバリアフリーを推進した。

▼ 幼児から高齢者、障がいのある方まで、四季を通じて多世代が楽しむことができる多種目のスポーツ・レクリエーションプログラムを提供し、利用機会の平等性を確保した。

▼ 自主事業の参加は、広く募集を行い、厳正な抽選により決定することで、均等な機会を確保した。

また、コミュニケーションツールの配備などを工夫し、全スタッフが一丸となって、不当な差別的行為を発生させない環境づくりに取り組んだ。

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

▼ 省エネルギーに係る業務計画及び札幌市環境マネジメントシステムに準拠し、二酸化炭素の排出の抑制及び環境負荷低減等、札幌市が掲げる関連施策の推進を中心に、社会課題である環境保全活動に組織全体で取り組むとともに、地球環境に配慮した新たな事業活動や施設運営を積極的に推進した。

▼ 札幌市温暖化対策推進計画基本方針の達成に向け、省エネ・節電の取組みを継続実施した。
また、ロビー等における照明機器を60基LED化したことにより、定格消費電力試算において、平成28年度と比較し4,498kWh/年削減した。

▼ 地球を守るより良い環境づくり・まちづくりのため、札幌市の「さっぽろエコメンバー登録制度」レベル3の登録を継続し、環境に配慮した取組みを推進した。

▼ 次世代を担う子どもたちに環境問題の現状と対策を伝えていくため、札幌市の行う「環境教育へのクリック募金」に継続して協力し、環境保全活動の輪を広げた。(代表団体の管理施設全体の寄付金額240,000円)

▼ エコキャップ運動の推進事業として、各管理施設にてペットボトルキャップを回収し、ゴミ減量(リサイクル化)とCO2削減に取り組むとともに、再資源化による製品売却益を寄附した。(平成20年度からの代表団体が管理する施設全体の回収累計数は、約962万個、22,991キログラム)

▼ 北海道グリーン・ビズ認定制度の「優良な取組」部門に登録申請を行った。

▼ 「生物多様性さっぽろ応援宣言企業・団体」への登録を行い、生物多様性の保全に努めた。

野外施設であることから、直接、省エネルギーに結びつく取組みが難しいものの、コアハウスのロビー照明のLED化を行うなど、積極的に環境への配慮に取組み、効果を上げた。
また、札幌市が推進する施策であるエコメンバーや生物多様性に関する取組みへの参画など、各種活動に組織的に取り組んだ。

節電、省エネ対策に積極的に取り組んでおり、環境に配慮した施設運営を実践している。
また、本市の事業への参加等により、食用油やエコキャップの回収などを行い、高い成果を上げていることは評価できる。

▼ さっぽろエコスタイル(クールビズ・ウォームビズ)を継続実施し、冷暖房設備の省エネを行った。

▼ 使用済ペーパーの裏面再利用を徹底した。

▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

【責任者の配置】

▼ コンソーシアム全体を取まとめる統括責任者と施設の業務を推進する施設責任者と併せて、リフト運行やフィールド整備業務において、利用者の輸送の安全を確保するため、鉄道事業法に基づき安全統括管理者や索道技術管理者を配置した。

また、各責任者は、公の施設の管理運営に係る長年の実務経験者を配し、公正な管理運営や施設環境の整備を行った。

施設責任者は、暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第14条第1項に規定する「不当要求防止責任者」として、施設の安全を確保した。

【組織整備】

▼ 統括責任者、施設責任者、安全統括管理者をはじめ、施設の管理運営、リフトの運行に関する職員を適正数配置した。併せて、代表団体事務局及び構成団体本部が専門的な業務のサポートに当たり、各業務を推進する体制を整備した。

また、コンソーシアム内の業務分担を明確化し、他のスポーツ施設等の指定管理グループの責任者や職員と積極的に情報共有を図ることで、組織的に、札幌市の公の施設の管理運営と市民の健康づくり・スポーツ活動の推進に取り組んだ。

▼ 組織図及びコンソーシアムの緊急連絡網(札幌市含む)等を作成し、指揮命令及び緊急時の連絡系統を徹底した。

▼ 組織のガバナンス強化を目的に、顧問弁護士、公認会計士や社会保険労務士との連携を図り、制度の再構成や諸規程の改正を行うとともに、職員への周知徹底を図った。(職員就業規則、育児休業及び介護休業に関する規則、ハラスメント防止等に関する細則等の改正)

【従業員の確保・配置】

▼ 管理運営業務計画書に基づき、常勤、非常勤職員を適正に配置した。特にリフトの運行に関しては、鉄道事業法における索道技術管理者等を配し、安全な運行管理を行った。

また、嘱託職員の採用に際しては、大学及び専門学校(7校)を訪問し、リクルート情報の積極的な発信やハローワークインターネットサービスへの求人情報掲載を行うなど安定的に確保した。

要求水準に基づく統括責任者と併せて館長(施設責任者)を重層的に配置するとともに、リフト輸送に関する安全統括管理者等を関係法令に基づき配置した。

また、コンソーシアムとして代表団体と構成団体がそれぞれ有するノウハウを最大限にいかすことができるよう、両団体の連携を強化した組織づくりを行うことで、市民の安全と快適な利用環境を整備した。併せて、体育館、温水プールのスポーツ施設等の指定管理者施設との業務の共通化や情報共有を図ることで、透明性と効率性の高い組織を構築した。

大学等と連携して、人材確保の活動を行い、管理運営業務計画書に基づく職員の採用を実施した。また、野外施設特有の管理ノウハウを習得するための研修や、スキー事業、リフト輸送に関する資格の取得更新を適正に行うとともに、安全な管理に関する資質向上の教育を徹底した。

管理運営に必要な責任者、職員を適切に配置しており、積極的な情報共有を図ることで業務改善に努めていることは評価できる。

また、人材育成にも力を入れており、幅広い内容の研修を行い、職員が知識、技能を習得できる機会を確保していることは、施設運営に対する意識向上につながると判断できる。

【人材育成】

▼ コンソーシアムの各団体が担当する業務に基づき、必要な研修やOJTを実施した。

特に、代表団体では、人材育成計画に基づく階層別研修プランを策定し、自身の課題の抽出や高度なビジネススキルの習得、労働環境の整備など、各職位で必要と考えられる研修を、業務の基本となるOJTと各業務のスキルを向上させるためのOFF-JTを効果的に活用しながら実施した。

また、障害者差別解消法の対応に関して実技を含めた知識の習得や顧客満足に対する意識向上の研修を実施した。

併せて、構成団体では、索道基礎習得のため適切なリフト作動研修を実施し、不測の事態に備えられるよう救助対策の機会を設けた。

▼ 平成29年度に実施または受講した特徴ある職員研修

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ①夏期団体イベント事業研修 ②動物駆除煙火打ち上げ従事者研修 ③索道基礎講習会 ④スキー検定員研修 ⑤SBB認定整備技術者セミナー研修 ⑥SAJ公認スキー学校主任教師研修 ⑦エゾシカ・ヒグマ研修 ⑧コンプライアンス研修～働き方改革～ ⑨不当要求防止責任者講習 ⑩リーダーシップ研修～7つマネジメントスキル習得～ ⑪認知症サポーター養成講座 ⑫チームのまとめ方フォローアップ研修 ⑬ビジネスマナー研修 ⑭障害者差別解消法兼サービス介助基礎資格検定 ⑮CS顧客満足向上研修 ⑯教室担当者勉強会研修～マーケティング～ ⑰労働関係法の基礎習得 |
|---|

▼ 代表団体では、職員のキャリア・スキルアップなどのための自己啓発活動支援休暇制度を設け、働きながら活動しやすい環境を整備した。

また、業務上有用と判断される資格取得にあたっては、経費の負担を行った。

なお、「キャリア・スキルアップ等自己啓発活動支援休暇制度」の導入により、働きやすい環境を整備しながら職員のスキルアップ機会を支援した。

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

▼ 利用者のニーズに柔軟に対応して、サービス水準を向上させるため、朝礼・昼礼・終礼を実施した。また、業務日誌やグループウェアを使用し、上司への報告、職員間の相互連絡等の情報を共有した。

▼ 代表団体では、役員会議、総括課長会議、館長会議、担当者会議などの会議を定期的で開催し、施設運営上の共通課題の認識と、解決方法の協議及び情報の共有化を図るとともに、コンソーシアム団体間の情報共有を促進した。

▼ 文書管理機能及びワークフローシステムを活用した業務効率の改善や事故報告の共有化により、事故を未然に防ぐ体制強化を図った。また、冬期間の管理にあたっては、無線を活用するなどし、広く連絡手段を確保した。

▼ 外国人利用者や聴覚に障がいのある方に対する利便性向上を図るため、翻訳や筆談機能を備えたタブレットPCの配備を継続した。また、受付窓口においても、このタブレットPCを活用して施設案内を行うなど、電子化を推進し、窓口業務の質を向上させた。

▼ 全職員が公の施設に勤務していることを自覚し、市民の多様化するニーズに対応したサービスの提供ができるよう、認知症や障がいのある方の対応に関する研修やガイドラインの整備を行った。また、代表団体の正規職員は、上級体育施設管理士の資格取得を推進(86.8%から91.5%に)し、嘱託職員はビジネス能力検定ジョブパス2級以上を取得するなどし、管理水準の維持・向上に努めている。

多様な利用者に対して、安全かつ快適に利用いただくために、職員間及びコンソーシアム団体間で適時、最適な情報共有が図れるよう、事案に応じた連絡体制を整備し、管理水準の維持向上に努めている。特に、冬期間はリフトの乗降場所やパトロール部門との連携が必須であり、事故の未然防止に向けて、迅速かつ正確な情報の共有に心がけている。また、各種コミュニケーションツールの配備やバリアフリーを進めることで、窓口業務の質の向上を図った。

定期的な会議の開催により、共通課題の認識と解決方法の協議を行っていることは、利用者が快適に利用できる施設運営に努めているものと高く評価できる。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

▼ 札幌市の承認を受け、清掃業務、警備業務、設備の保守管理業務、法定に基づく各種点検業務などを第三者に委託した。事業者の選定にあたっては、各団体の「契約事務取扱規程」などにに基づき、公平かつ透明性を確保した。

また、業務が適正に履行されるよう、立ち合い検査や作業報告書などにより適正な履行確認を行った。

▼ 委託事業者に従事する労働者の労働環境維持向上のため、札幌市の「雇用環境調査」に伴う賃金、労働時間・条件、各種保険への加入、健康診断の有無などの調査要請と確認を行った。

▼ 館長(施設責任者)は、委託事業者への指示命令システムを明確化し、連絡体制を整備した。

また、救急救命講習の受講を義務付けるとともに、施設の消防訓練への参加を要請するなど防災に対する意識向上を図った。

第三者への委託業務等の指揮監理は、館長(施設責任者)が指揮命令系統を整備し、履行検査員となって適正に履行確認を行った。また、定期清掃などは、作業計画書の提出により、事前に作業の工程や従業員、利用者の安全確保策を確認するなど、十分な打ち合わせのうえ実施した。

協定書に沿って適切な業務委託が行われている。今後も見直しや改善を行いながら適正な運用がされるよう期待する。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)

▼ 運営協議会の開催状況は下表のとおり

開催回	協議・報告内容
第1回 6月16日	①平成27年度1月から3月(第4四半期)の実績報告 ②指定管理運営に係る近況報告 ・平成28年度第6回・7回理事会の開催について ・正規職員の採用について ・定期内部監査の実施について ・労働安全衛生会議の開催について ③懸案事項と確認事項 ・ロビー照明のLED化について
第2回 8月23日	①平成29年4月から6月(第1四半期)の実績報告 ②指定管理運営に係る近況報告 ・平成29年度第1回理事会・評議員会の開催について ・嘱託職員の採用について ③懸案・確認事項 ・満足度調査の実施について ・体育の日無料開放について ・第1ロマンズリフトの改修工事進捗について
第3回 11月22日	①平成29年7月から9月(第2四半期)の実績報告 ②指定管理運営に係る近況報告 ・平成29年度第3回理事会の開催について ・定期内部監査の実施について ・幼少年体育指導士認定講座及び体育施設管理士養成講習会の開催について ③懸案事項と確認事項 ・スキー場オープンに伴う準備作業、点検について
第4回 3月14日	①平成29年10月から12月(第3四半期)の実績報告 ②指定管理運営に係る近況報告 ・平成29年度第4・5・6回理事会の開催について ・正規・嘱託職員の採用及び職員の配置について ・労働安全衛生会議の実施について ③懸案・確認事項 ・冬期供用期間について ・備品寄付、修繕要望調査について
<協議会メンバー> ・札幌市スポーツ部施設課 ・(一財)さっぽろ健康スポーツ財団 事務局各課 ・Fu'sコンソーシアム札幌構成団体:(株)札幌リゾート開発公社	

3か月に1回を目安に、要求水準となる年4回の「運営協議会」を開催した。四半期ごとの利用状況のほか、指定管理業務に関わる取組みの報告や課題解決に向けた意見交換などを行い、札幌市との情報共有と施設の管理水準の維持向上を図った。特に、平成29年度はリフト改修工事があったことから、工事の進捗状況や安全確保の対策について、併せて適時、報告を行った。

要求水準どおり、年4回運営協議会を開催し、意見交換を行った。

▼ 施設の管理運営に係る重要案件については、協定書に基づき、所管局を通して札幌市へ適正に報告・連絡・相談を行った。

▼ 施設が所在する藤野公園町内会に加盟し、施設近隣住民と良好な関係を築いた。

▼ 地域活動の活性化を図るため、「もいわ夏まつり」、「交通安全街頭啓発運動」などに参画し、連合町内会、商店街組合等と連携を図り、良好な関係を築いた。

▼ 自主事業の開催にあたり、札幌スキー連盟、札幌リュージュ連盟などのスポーツ団体や南陵高等学校などの教育機関等と協力・連携した。

▼ 真駒内中学校の職業体験を受入れし、学生の職業観の醸成に寄与した。

▼ 市内の高等支援学校や障がい者関係団体の利用推進に協力した。

▼ 大学や専門機関と連携し、運動プログラムの開発や資格認定講座の開催などを行った。

①北翔大学との「事業連携に関する協定」継続(スポーツボランティアの実習等)

②順天堂大学と連携した「利用者満足度調査」の実施

③順天堂大学及び日本体育施設協会と連携した「体育施設管理士養成講習会」の開催

④政令指定都市及び道内のスポーツ振興団体との連携(連絡会議の開催)

⑤日本スポーツボランティアネットワークへの参画

⑥日本公共スポーツ施策推進協議会への参画

⑦一般社団法人幼少年体育指導士会と連携した「幼少年体育指導士認定講座」の開催

▼ プロスポネットSAPPOROの「北海道コンサドーレ札幌」、「北海道日本ハムファイターズ」、「レバンガ北海道」や、「エスポラーダ北海道」、「ノルディーア北海道」のプロチーム・トップチームの活動を代表団体全体で支援するとともに、協働事業などの開催を通じて、子ども達と選手が触れ合う機会の創出に寄与した。

▼ 社会貢献活動等の取組み

① 環境保全活動

関係団体との連携による河川敷清掃、植栽などの実施、ペットボトルキャップの回収(回収累計22,991キログラム)、環境教育へのクリック募金への協力(寄付金額240,000円)、「生物多様性さっぽろ応援宣言企業・団体」、「さっぽろエコメンバー(レベル3)」への登録など、環境保全活動に積極的に協力した。

また、北海道グリーン・ビズ認定制度の「優良な取組」部門に登録申請を行った。

町内会や地域の関係団体との連携を強化し、拠点施設として、まちづくり及び地域コミュニティの活性化を図った。また、各種スポーツ団体や教育機関と連携して各種事業を推進した。併せて、札幌市の施策である、プロスポネットSAPPORO やさっぽろ救急サポーター、地域サポーターズなどの取組みに積極的に参画し、施設の機能を最大限に発揮した。

札幌市及び関係団体との適正な連絡調整と併せて、管理運営業務計画書の提案に基づく社会貢献事業等を組織的に実施し、施設の効用をさらに高めた。

② 地域防犯活動

連合町内会及び警察署の協力による交通安全啓発運動、不審者及びテロ対策講習を開催するなど、地域における防犯活動を推進したほか、札幌市地域安全サポーターズに登録し、施設が子ども110番のエリアとなり、また、公用車にステッカーを貼るなど、地域の防犯活動を積極的に行った。

③ さぼーとほっと基金への登録

札幌市内の町内会やボランティア団体を助成するためのさぼーとほっと基金へ登録し、飲料などの自動販売機の売り上げの一部を寄付することで、札幌のまちづくり活動を支えた。

④ 地域への安全なスポーツ環境の提供

さっぽろ救急サポーターとして、応急手当のできる職員を配置し、速やかに応急手当が行える環境を整え、地域の安全・安心なスポーツ活動の実施に協力した。

⑤ 社会貢献や地域支援などを目的とした関係機関との連携支援として、盲導犬育成支援募金(募金額:平成29年度分109,502円)及び東日本大震災復興支援募金(募金額:平成29年度分38,981円、累計1,728,381円)、熊本地震災害救援募金(募金額:平成29年度分154,351円、累計378,952円)などに協力した。

⑥ 献血への協力

「献血サポーター」として登録し、献血へ積極的に参加することを全職員に呼びかけ、北海道血液センターにて成分献血及び全血献血に協力した。

⑦ 札幌市が「魅力都市さっぽろシティプロモート戦略」のコンセプトとして掲げた「笑顔、スマイル」を象徴する専用ロゴマーク「SAPPORO(サッポロスマイル)」を広くPRするため、パートナー会員として登録するとともに、職員はネームプレートに同ロゴを取入れ、積極的にシティプロモート戦略の推進に寄与した。

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

▼ 冬期間のリフト利用料は鉄道法に基づき、索道事業者である構成団体が適正に収入した。

また、その他利用料や自主事業に関する料金は、代表団が適正に収入した。

なお、収入にあつては、指定管理事業と自主事業を明確に区分し、経理書類を年度ごとに適切に保管し、経理処理を行った。

併せて、現金の取扱いは、各団体の規程、コンソーシアムで整備するマニュアルに沿い、適正な処理を行った。

▼ 毎日の利用料収入等は、売上根拠資料と一致するよう職員2名で確認し、売上金、日計表、現金出納簿の整合性を複数の職員で確認するなど厳格に管理した。

▼ 切手、サピカ、タクシーチケットなどの金券類は、使用の都度、受払簿に記帳するとともに、現金分任出納員となる館長(施設責任者)が厳格に管理した。

代表団体での資金管理を含めた全ての会計処理は、公益法人会計基準に適合した「会計ソフト」を活用し、法令に則って適正に処理するとともに、ディスクロージャーと事務の効率化を推進した。

必要な規程類を整備するとともに、複数の監査・検査により健全な管理に努めている。

▼ 施設内に指紋認証式金庫を配備し、開閉履歴を管理することにより、事故や不祥事の未然防止を徹底した。また、懲戒処分細則に不祥事に対する罰則規定を定め、厳格な管理に継続して取組んだ。

▼ 予算編成、収入・支出行為、決算については、代表団体事務局の財務課が管理集約することで、適正な処理を行った。
また、10万円以上の物品購入や役務における事業者の選定については、契約事務取扱規程を整備し、指名競争入札または随意契約により公平性かつ透明性を確保した方法で実施した。

▼ 税理士法人と顧問契約を締結し、定期的に監査を受け、会計帳簿及び財務諸表の確認のほか、税務に関する相談・アドバイスを受け、各種税法を遵守した会計処理を徹底した。

▼ 関連法令、代表団体の定款及び財務会計規程、資産運用要領の定めのほか、公益法人会計の基準に準拠し、透明性の高い、健全な資金管理を行った。

▽ 要望・苦情対応

▼ コンソーシアムで整備する要望対応手続きに関するマニュアルに基づき、全職員がOJTなどを通じて共通の対応ができる体制を整備した。

▼ 施設に直接寄せられた要望・苦情は施設責任者が担当窓口となり、その内容に応じて必要な対応を行った。
また、グループウェアや業務日誌による一元化した情報共有を行い、引継ぎを行うとともに、早期の業務改善に反映させる体制を整備した。

▼ 施設内にご意見箱を設置し、寄せられた要望・苦情について、今後の対応を迅速に回答を掲示した。

▼ メールで寄せられた要望・苦情は代表団体事務局（総務課）を受付担当の窓口として、原則7日以内に迅速に回答した。
また、寄せられた内容は、要望、意見、苦情、問合せに分類し整理した。

▼ 札幌市の判断を要するものは、速やかに報告・相談し、連携を図りながら対応にあたった。

▽ 記録・モニタリング・報告・評価（記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施）

▼ 管理運営業務に関する記録や帳簿類は、年度ごとに適切に整備し、仕様書に定められた期間で適正に管理・保管した。

また、各団体で現金取扱いに関する規程を整備するとともに、コンソーシアム内で「現金取扱いマニュアル」を共有し、適正な処理がなされているか複数名での確認を徹底した。
併せて、代表団体では、公認会計士との外部監査契約、税理士との顧問契約（月例点検）、定期内部監査、監事監査、札幌市監査など第三者機関を含めた重層的牽制機能により、透明性が高く、厳格な経理処理を徹底した。何れの検査においても適正と評価された。

利用者や市民からの意見・要望・苦情に対しては、丁寧な対応と迅速な回答を心掛けて対応した。
改善できるものは即時改善し、施設や設備改修に関するものについては、適宜所管局へ報告・相談を行うなど、事案解決に向けて誠実かつ適切に対応した。
また、利用者及び市民から寄せられた意見、要望、苦情はコンソーシアム内で情報共有を図り、施設の管理運営に活用した。

申出のあった内容について、確認・調査が必要な場合には、申出人に対し正確な内容を早急に回答できるように迅速な対応に期待したい。

日報、事業計画・報告書、収支予算・決算書等の整備・保管は適正に行っている。

要求水準に基づき適正に対応している。

	<p>▼ 代表団体事務局の各課において、施設の業務に関する実施方法、記録等について適時確認を行い、セルフモニタリングを行った。</p> <p>▼ 札幌市のチェックリストにより、業務・財務に関する自己チェックを前期と後期の2回実施した。</p> <p>▼ 利用者満足度調査のほか、代表団体では、コンプライアンスやガバナンス、利用者サービスと業務の改善を目的としたセルフモニタリングを実施した。また、その分析結果や改善方法等については、運営協議会等で適時、報告した。</p> <p>①コンプライアンス委員会及びリスク管理委員会により、ガバナンスの確認と評価</p> <p>②外部監査(監査法人会計監査3回、税務監査9回実施)</p> <p>③PDCAサイクルによる提案項目の進捗管理</p> <p>④利用者のご意見等を記載する専用カードと回収箱の常時設置による要望等の収集</p> <p>⑤ホームページのご意見メールの機能による市民からの要望等の収集</p> <p>⑥大会・イベント等参加者に対する事業内容の検証とプログラムサービスの改善に関するニーズ・意見の収集(事業の実施時間の変更など)</p> <p>▼ 施設の利用状況・利用料金収入状況に関する毎月の報告のほか、修繕完了時の報告、事故発生時の報告を適時行った。また、事業年度終了に伴う管理運営業務の実施状況等の事業報告を行った。</p>	<p>また、施設のご意見箱やホームページに寄せられたご意見・要望等は、施設責任者が回答し、館内掲示及びメールにて7日以内に回答した。</p> <p>また、大会や教室参加者へのアンケートを実施し、参加者のニーズを把握し、以降の改善につなげた。</p> <p>なお、札幌市への報告については、運営協議会等で運行、突発的な事故については、早急な対応と報告を行った。</p>									
<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <p>▼ 組織のガバナンス強化を目的に、職員就業規則、ハラスメント防止等に関する細則、懲戒処分細則等の改正を行った。</p> <p>また、社会保険労務士、弁護士と顧問契約し、労働関係法令を遵守するとともに、札幌市に準じて就業規則等の必要な改正を行った。</p> <p>▼ 最低賃金法に基づき、適正な賃金改定を行った。また、代表団体では、平成30年3月にも規程改正を行い、パート職員の給与を引き上げ雇用環境の向上を図った。(平成30年4月1日から適用)</p> <p>▼ 労働基準法第36条に基づき「時間外労働及び休日労働に関する協定(三六協定)」を締結(更新)し、所轄労働基準監督署への届出を行った。</p> <p>▼ 厚生年金保険法及び健康保険法に基づき、労働者の勤務形態、家族状況等に応じて厚生年金保険、健康保険に適切に加入し、必要に応じて適切に届け出等を行った。</p> <p>▼ 労働者災害補償保険法に基づき、全ての労働者は労災保険に、条件を満たす労働者は雇用保険に加入した。</p> <p>また、代表団体では、労働安全衛生会議を設置し、労働災害防止対策を徹底した(労災防止強化月間の制定等)。</p> <p>夏期:7月1日から7月31日/冬期:12月1日から12月31日</p>	<p>各団体とも、職員の採用、雇用に関しては労働基準法、労働契約法、労働安全衛生法等を遵守し、就業規則等を整備するとともに、札幌市の条例改正等に準じ、適正に規程の改正を行った。雇用環境の向上についても、非正規雇用の賃金改正、有期契約職員の無期転換やワークライフバランスへの取り組み実施した。</p> <p>また、代表団体では、障がい者の雇用促進や雇用環境の整備も行い、法定雇用率を超える雇用を達成した。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>関係法令を遵守し、必要な規程を整備するとともに、それらの見直し及び改正等を適正に対応しており、労働安全衛生会議の設置等により、労働者が安心して働くことのできる環境づくりに努めている。また、障がい者の雇用促進や非正規職員から正規職員への転換、及び育児等への配慮については、今後も積極的な取組に期待したい。</p> </td> </tr> </table>	A	B	C	D	<p>関係法令を遵守し、必要な規程を整備するとともに、それらの見直し及び改正等を適正に対応しており、労働安全衛生会議の設置等により、労働者が安心して働くことのできる環境づくりに努めている。また、障がい者の雇用促進や非正規職員から正規職員への転換、及び育児等への配慮については、今後も積極的な取組に期待したい。</p>			
A	B	C	D								
<p>関係法令を遵守し、必要な規程を整備するとともに、それらの見直し及び改正等を適正に対応しており、労働安全衛生会議の設置等により、労働者が安心して働くことのできる環境づくりに努めている。また、障がい者の雇用促進や非正規職員から正規職員への転換、及び育児等への配慮については、今後も積極的な取組に期待したい。</p>											

▼ 労働安全衛生法に基づき、1年に1回定期健康診断を実施した。
また、職員の健康管理のため、内科医及び心療内科医を産業医として選任するとともに、ストレスチェック制度実施規程を策定し、職員数が50人を超える事業場の職員に対しストレスチェックを実施するなど、職員の健康管理に適正に対応した。

▼ 労働契約法に基づき、平成30年4月1日以降に雇用期間が5年を超える職員については、無期労働契約へ転換する旨規程改正を行い、有期労働契約職員に制度の周知・説明を行った。無期労働契約転換申出書の様式を配布し、平成30年4月1日以降随時受付を行い、積極的に無期転換を進める。

▼ 代表団体では、正規職員を新たに雇用する際、現在の非正規職員(嘱託職員)から受験者を募り、内部登用試験を実施した。その結果、非正規職員6名を正規職員に転換した。

▼ 代表団体では、高齢者等雇用の安定等に関する法律に基づき、定年(60歳)退職後に、希望者全員を65歳まで継続雇用し、高齢者の雇用を促進した。

▼ 代表団体では、次世代育成支援対策推進法及び女性の職場生活における活躍の推進に関する法律に基づき、一般事業主行動計画を策定し、北海道労働局への届出とともに全職員への周知及びホームページで公表した。

▼ 代表団体では、育児・介護休業法の改正に伴い、保育所に入園できない場合等の休業期間繰り下げ変更申請回数を、法定を超える子が3歳に達するまで何度でも変更可能とする旨、規程改正を行い雇用環境の向上を図った。

▼ 番号法に基づく、マイナンバー取扱いの基本方針に基づき取扱規程を策定し、マイナンバーの取得や保管に関して厳重に管理した。

▼ 代表団体では、障がい者の雇用の促進等に関する法律に基づき、障がい者の雇用促進を積極的に取り組み、法定雇用率2.0%を超える2.27%の雇用率となった。

▼ 代表団体では、札幌市のワーク・ライフ・バランス取組推進宣言認証企業(ステップ3)として、職員の仕事と生活の調和のため、スキルアップや社会貢献、ボランティア活動、育児休業などの各種休暇取得を奨励した。

▼ 代表団体では、子育てしやすい環境づくりを推進するため、さっぽろ市民子育て支援宣言を行った。

▼ 代表団体では、職員の福利厚生として、業績表彰・永年勤続表彰・慶弔給付・人間ドック助成・宿泊助成などの制度を実施した。

▼ 日常業務におけるシステム化を進め、業務の効率化を図ることで長時間労働を抑制するなど、ワーク・ライフ・バランスの取組みを推進した。

<p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総合的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p>		<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table>	A	B	C	D
			A	B	C	D	
<p>▼ 利用者の安全管理を最優先に考え、札幌市施設保全マニュアルに基づき施設整備維持に関する確認を行った。 また、管理運営マニュアル、事故対応マニュアル、災害対応マニュアルなど各業務に沿ったマニュアルを整備し、施設内で共有した。 併せて、施設の設備状況に合わせた巡回点検表を活用し、異常の有無を確認するなど、継続的な安全確保とサービス水準維持の向上を図った。</p> <p>▼ 上級体育施設管理士をはじめ、防火管理者、車両系建設機械運転技能講習修了者、スキー指導員、ウォーキング指導員、SBB認定整備技術者、認知症サポーター、サービス介助基礎修了、普通救命講習修了者、応急手当普及員などの専門資格者の配置を継続した。 併せて、各資格保有者が中心となり、救急救命講習や事故対応シミュレーション研修等、各種研修を継続的に実施し、利用者の安全確保と適切な施設の管理運営を行った。</p> <p>▼ 索道運行の安全統括管理者をはじめ、鉄道事業法に基づき、索道技術管理者、索道技術管理員をリフト1基に1名以上配置し運行管理した。</p> <p>▼ リフトの運行にあたっては、安全管理規程、索道運送約款、特殊索道運転取扱い細則、雪上車両安全管理規程など各種規程・要領に基づき、安全を確保した。</p> <p>▼ 日本赤十字社(札幌スキー傷害防止対策協会)と連携し、医療スタッフを配置、自主パトロールを強化し、注意喚起のハザードマップを掲示するなど事故の未然防止と速やかな対応を行った。</p> <p>▼ 安全推進委員会会議を開催し、昨年事故統計や傾向を基にゲレンデ内、事故多発個所の安全対策を検討した。 また、各担当セクション(索道、パトロール、スキー・スノーボードインストラクター)の安全対策研修計画を策定するなど安全確保に配慮した運営を行った。</p> <p>▼ 夏期間の第1ロマンズリフトの改修工事に伴い、市民の利用に支障が生じないよう、十分な周知をするともに、歩行者、近隣住民に対しても安全の確保を図った。 また、工事の進捗について関係各所と定期的な打合せ会議を行い、工事の円滑な進行に最大限の配慮を行った。</p> <p>▼ 拾得物については、特例施設占有者として、定められた期間内に所轄警察署へ届出を行ったほか、「拾得物・遺失物の取扱マニュアル」を策定し、適切に取扱った。</p>	<p>施設の運営やリフトの運行、安全管理等に関する資格者を配置し、事故の未然防止と適切な対応準備に取り組んだ。 また、冬期間は、スキー、スノーボードの利用に対する安全推進委員会を設置し、関係者・団体が一丸となって事故の未然防止に努めるなど積極的な取り組みを行った。 併せて、リフト改修工事に伴う開放エリアの制限に対し、適切な周知や安全対策を講じることで、利用者、歩行者、近隣住民の安全を確保した。</p>	<p>必要なマニュアルを整備するだけでなく、訓練の実施や研修への参加等により、利用者の安全確保等に積極的に取り組んでいる。</p>					

▼ 施設賠償責任保険(交差責任担保特約の付加)、運送保険、車両保険に加入し、利用者及び職員への適切な補償体制を整備した。
また、代表団体で傷害見舞金給付事業を行い、自主事業参加者の事故に備えた。
なお、施設賠償責任保険における賠償額は、対人・対物とも仕様書に示す基準補償額を大きく上回っている。
(夏期:対人/1事故4億円、1人1億円、対物/1事故5千万円、冬期:対人/1事故5億円、1人3億円、対物/1事故3億円)

▼ スポーツ施設におけるAEDの設置・管理の在り方に関するガイドラインに準じて、グループ施設に計3台のAEDを設置し、緊急時には誰もが即時に使用できる環境を整備した。

▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)

▼ 清掃業務

施設の衛生面や設備、器具等の清潔さには特段に配慮し、日常的に行う清掃・廃棄物処理と利用者からの連絡・要求に基づき行う対応清掃を適正に遂行した。
また、日常的な実施が困難な高所窓ガラス清掃などの定期清掃は、年間計画において清掃箇所や安全対策を事前に確認したうえで、専門業者が実施した。

▼ 警備業務

閉館時間帯は職員が施設内の秩序維持にあたり、閉館後は機械システムにより警備を実施し、火災、盗難、破壊等の事故発生の警戒・防止を行った。
また、閉館時間帯に異常が発生した場合には、職員が急行できる連絡・参集体制を整備した。

▼ 保守点検

施設・設備の機能を良好に維持するため、暖房・給湯ボイラー、空調設備、スポーツ器具等の日常点検、定期点検、自主点検を計画的に実施し、劣化及び損傷の早期発見と予防保全を行った。
また、建築基準法、電気事業法、消防法等に定められた法令点検についても、遅延なく実施し、部品等の交換を適切に行った。

▼ 夏期間は、適時、芝刈り、剪定、病虫害防除を行い、良好なコンディションを維持した。
また、熊の出没による危険回避のため、巡回を強化した。

▼ 冬期営業開始前に索道の基準適合検査、試験運転を行ったほか、シーズン中の定期検査、終了後の検査・整備など、法令・定期点検及び定期整備を行った。

▼ 冬期間は圧雪車による整備を行い、グレンデを良好な状態で維持した。

▼ 冬期間は、毎日、始業点検、中間点検、終了点検(リフト各所の点検、圧雪車、スノーモービルなど各種機器の点検・整備)を行った。

損害賠償責任保険は前年度から継続して、仕様書に定める内容以上の補償体制を維持するとともに、冬期間は公認スクールの実施に伴い、さらに高い補償内容とした。

各業務においては、利用者の安全・安心を最優先した管理を徹底し、積極的に日常点検を行うなど、要求水準に基づく取組みを実施した。
また、第三者へ委託する業務は館長(施設責任者)が監督・指導の体勢を整備し、適正な履行確認を行った。
併せて、冬期間の駐車場は近隣住民の迷惑にならないよう、混雑時に警備員を配置し、必要に応じて職員が入口斜面の除雪作業を行うなど、仕様書に定める要求水準以上の取組みを実施した。

法定点検のみならず、日常的に点検を実施しており、また、修繕及び備品購入についても適宜対応しており、利用者の安全性・利便性向上に大いに貢献しているものと評価できる。

▼ 札幌リユージュ連盟と連携を図り、天然(氷)コースのリユージュコースを造成した。また、良好なコース状態を維持するため適時補修を行い維持管理した。

▼ 修繕

施設等の修繕は、市民の利用に支障が生じないよう緊急度や破損の状況を考慮し、必要な初期対応を含めて実施した。

また、対応の都度、札幌市に報告するとともに、施設・設備の劣化状況に対応した修繕計画を策定し、札幌市と打合せを行い、損傷を最小限に抑えるよう努めた。なお、協定に定める金額以上の修繕を実施した。

▼ 備品管理

日常・定期点検、専門業者による保守点検、清掃などを実施し、異常を早期発見するとともに、所要の性能を発揮できる状態を維持した。

▼ 市民サービスの向上を図るため、自主財源等を活用し、新たに以下の設備・備品を導入(更新)した。

- ・ロビー等LED照明工事 2,808,000円
- ・AED及び設置BOX

▼ 駐車場管理

場内での事故や交通渋滞の防止のため、車両の監視、誘導などを適切に行った。

また、冬期間、土・日曜日、祝日及び混雑が予想される日は警備員を配置した。

▼ 外構緑地管理

職員が植栽を含む外構緑地の点検、除草、冬囲いなどを適切に行った。

また、安全な利用に支障がある枝等の剪定は適時実施した。

▼ 敷地管理

境界標が滅失しないよう日常的な点検と併せて、位置図面と写真台帳を作成、更新し、常に確認可能な状態にするとともに、札幌市の調査に協力した。

▼ 除排雪業務

スリップなどの危険がある箇所については積雪5cm以上、その他の箇所については積雪10cm以上を基準として駐車場内の除雪を行った。

また、排雪時は近隣住宅の迷惑にならないよう配慮し、委託事業者と打合せのうえ実施した。

なお、車両の通行や歩行に支障がある箇所については、適宜職員が砂撒きをし、通路、入口斜面の除雪、凍結時の氷割、雪庇、落雪などの危険箇所立ち入り禁止対応などを行った。

	<p>▽ 防災</p> <p>▼ 札幌市危機管理基本方針及び札幌市国民保護計画等を基に「災害対応マニュアル」を策定し、多様な災害発生時における迅速、的確な対応や被害の抑止、軽減等の体制を整備した。</p> <p>▼ 台風・地震・火災等の発生に備え、樹木等の倒壊や飛散物が発生する恐れのある箇所及び消防設備等の点検を適宜実施するとともに、職員による自主防災組織の編成と、事故・災害などを想定した定期的な訓練を実施し、被害を最小限に抑えるための対策を行った。</p> <p>▼ 札幌市内の天候状況の変化などを事務局で集約し、施設に対応の指示と併せて適時発信することで、組織的に災害対策への取組みを徹底した。</p> <p>▼ 地震速報器、雷検知器の設置や札幌市防災アプリ「そなえ」をダウンロードするなど、利用者への適切な注意喚起・避難誘導等の対応ができる体制を整えた。</p> <p>▼ 南消防署が実施する林野火災訓練の会場として全面的に協力した。</p> <p>▼ 熊の出没に注視し、発見があった場合は、速やかに札幌市に報告のうえ、開放エリアの規制等、適切な対応を行った。</p>	<p>台風・地震・火災等の発生に備え、災害対応マニュアルの整備や、定期的な訓練などで職員の防災意識を向上した。また、夏期間は熊の出没に注視するとともに、冬期間は、強風や大雪など天候の変化に注視し、リフトの安全運行に努め、利用者の安全を確保した。</p>	<p>災害時に備えた訓練の実施や緊急連絡網作成等、職員の防災意識を高めるとともに、利用者の安全確保に努めている。また、天候情報の集約や防災アプリ等の使用など、十分な体制を整えていることは評価できる。</p>								
<p>(4)事業の計画・実施業務</p>	<p>▽設置目的を達成するための必要な業務</p> <p>▼ 四季に応じた札幌らしいスポーツライフを実現するために、夏期、冬期のフィールド開放及びリージュコースの造成・管理を行った。</p> <p>▼ 夏期間は、リフト改修工事の支障にならない範囲で、利用者の安全に配慮しながら、芝生広場、自然散策、キッチンフィールド等の開放を行った。また、夜間の利用にも対応するため職員を配置し、体制を整備した。</p> <p>▼ 冬期間は、第1ロマンズリフトの改修により変更が生じた利用者の動線の安全確保を含む、6つのゲレンデコースとキッズランドを開放し、スキー、スノーボード、ウインターレクリエーションスポーツや、各種競技大会の開催・運営協力を行った。</p> <p>▼ 冬期間のゲレンデは降雪が少なかったため、オープンが約1カ月遅れ、12月28日からとなった。12月中は降雪の状況により、いつでもオープンができるように人員体制を整え、事前準備に従事した。</p> <p>▼ リージュコースの造成を行い、各種競技会や体験会を行い、競技力の向上と市民への認知度の向上を図った。</p> <p>▼ ウィンタースポーツ競技の拡充や競技力の向上を図るため、指導者の育成の場としての会場利用に協力した。</p>	<p>夏期フィールドは、リフト改修工事を行いながら、施設の特徴である四季に応じた多様な種目の開放ができるよう、札幌市と協議のうえ、十分な安全対策を講じた。また、冬期フィールドは、オープンの遅れにより、当初計画していた事業が十分に実施できなかったが、利用者ニーズに対応した多様なリフト料金を設定するなど、利用者サービスの向上に努め、利用者の減少を最小限にとどめた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>季節ごとに施設の特性を活かした開放を行っており、広く利用者ニーズに対応することで、スポーツ活動の機会拡充に貢献している。また、指導員の派遣や新たなリフト券の設定など、積極的に取り組んでいることは評価できる。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>季節ごとに施設の特性を活かした開放を行っており、広く利用者ニーズに対応することで、スポーツ活動の機会拡充に貢献している。また、指導員の派遣や新たなリフト券の設定など、積極的に取り組んでいることは評価できる。</p>			
A	B	C	D								
<p>季節ごとに施設の特性を活かした開放を行っており、広く利用者ニーズに対応することで、スポーツ活動の機会拡充に貢献している。また、指導員の派遣や新たなリフト券の設定など、積極的に取り組んでいることは評価できる。</p>											

	<p>▼ スキー学習や地域団体の利用を受入れ、指導員の派遣や利用スペース等の調整を図った。 特に、特別支援学校や自衛隊の訓練などを積極的に受入れた。</p> <p>▼ 利用時間・期間区分の選択肢を拡大させたリフト新券種(時間券、シルバー券、レイトシーズン券など)を設定し、団体や高齢者等の割引を導入するなど、新たな利用者の獲得や利用者全体の底上げを図った。</p>																																														
<p>(5)施設利用に関する業務</p>	<p>▽ 利用件数等</p> <p>▼ 利用者数 (人)</p> <table border="1" data-bbox="363 577 962 779"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H28実績</th> <th>H29実績</th> <th>前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フィールド(夏期)</td> <td>8,705</td> <td>5,835</td> <td>67.0%</td> </tr> <tr> <td>フィールド(冬期)</td> <td>881,084</td> <td>802,194</td> <td>91.0%</td> </tr> <tr> <td>リュージュ競技場</td> <td>698</td> <td>878</td> <td>125.8%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>890,487</td> <td>808,907</td> <td>90.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※利用者数・件数は別添1のとおり</p> <p>▼ 開放日数 (日)</p> <table border="1" data-bbox="363 898 962 1099"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>H28実績</th> <th>H29実績</th> <th>前年比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フィールド(夏期)</td> <td>169</td> <td>158</td> <td>93.5%</td> </tr> <tr> <td>フィールド(冬期)</td> <td>122</td> <td>94</td> <td>77.0%</td> </tr> <tr> <td>リュージュ競技場</td> <td>46</td> <td>47</td> <td>102.2%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>337</td> <td>299</td> <td>88.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>▽ 利用の承認、不承認、取消し、減免、還付等</p> <p>▼ 使用券の発行により、使用の承認を行った。 また、使用の不承認に該当しないよう札幌市体育施設の使用許可に係る審査基準に基づき、利用団体と十分に事前打合せを行った。 その他、承認の取消しや利用料の減免、還付、撮影に関する承認について、札幌市体育施設条例、同規則、各基準、要綱に基づき、行政執行代理者として、適正な手続きを行った。</p> <p>▽ 利用促進の取組</p> <p>▼ 夏期フィールドでは、気軽にニュースポーツが行えるよう、フライングディスクやドッチビーなどの用具を無料で貸出した。 また、職員が使用方法に関するワンポイントアドバイスを行った。 併せて、有料のレンタル品も含めた無料体験会を実施した。</p> <p>▼ 各種大会等の開催にあたっては、供用期間・時間を延長して対応した。(実績は別添2のとおり)</p> <p>▼ マウンテンバイク(MTB)やヒルクライムラン、スキー、リュージュの大会開催にあたり、運営協力を行った。</p>	区分	H28実績	H29実績	前年比	フィールド(夏期)	8,705	5,835	67.0%	フィールド(冬期)	881,084	802,194	91.0%	リュージュ競技場	698	878	125.8%	合計	890,487	808,907	90.8%	区分	H28実績	H29実績	前年比	フィールド(夏期)	169	158	93.5%	フィールド(冬期)	122	94	77.0%	リュージュ競技場	46	47	102.2%	合計	337	299	88.7%	<p>夏期間は、リフト改修工事により登山、MTBコース利用が中止になったため、利用者数が減少した。 また、冬期間は、雪不足によるオープンの遅れのため、前年度より28日間開放が減少したことで、利用者数が減少した。 しかしながら、広報PRや体験会等の開催など積極的な利用促進の取組みにより前年度の90.8%にとどめた。</p> <p>職員が関係条例等を十分に理解したうえで、必要に応じて札幌市と調整するなどし、適正な手続きを行った。</p> <p>施設が有する機能を最大限に発揮できるよう、フィールドを活用した多様な利用促進策に取組み、利用者の増加を図った。 特に、冬期間は無料送迎バスを運行し、利用者の利便性向上を図り、気軽なウインタースポーツ活動の機会を創出した。</p>	<table border="1" data-bbox="1233 495 1449 539"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>改修工事や冬期のオープンが遅れたことにより、前年度よりも利用者が減少しているが、1日あたりの利用者数は前年度以上となっているため、広報PR等による成果と考えられ、評価できる。今後も効率的な施設運営・安定した利用者確保に期待したい。</p> <p>条例に基づき適正に対応している。</p> <p>利用促進に向けた様々な取組を実践していることは評価できる。 また、「ウインタースポーツ塾」をはじめとしたウインタースポーツの普及・振興に向けた取組に今後も期待したい。</p>	A	B	C	D
区分	H28実績	H29実績	前年比																																												
フィールド(夏期)	8,705	5,835	67.0%																																												
フィールド(冬期)	881,084	802,194	91.0%																																												
リュージュ競技場	698	878	125.8%																																												
合計	890,487	808,907	90.8%																																												
区分	H28実績	H29実績	前年比																																												
フィールド(夏期)	169	158	93.5%																																												
フィールド(冬期)	122	94	77.0%																																												
リュージュ競技場	46	47	102.2%																																												
合計	337	299	88.7%																																												
A	B	C	D																																												

	<p>▼ 北海道スキーシーズンネットに加盟し、道内スキー場の相互割引を可能にした。</p> <p>▼ 秋まつりやフェスティバルなどの開催を通し、地域における施設認知度向上による利用促進を図った。</p> <p>▼ 小学生を対象に3日間に渡りウインタースポーツ6種目(クロスカントリースキー、スキージャンプ、スノーボード、カーリング、フィギュアスケート、リュージュ)を体験、する「ウインタースポーツ塾」(札幌市からの受託事業)を開催したほか、同事業体験者の中から希望者を対象にウインタースポーツ5種目(クロスカントリースキー、スノーボード、カーリング、フィギュアスケート、リュージュ)の無料体験会を実施、ウインタースポーツの普及振興に寄与した。</p> <p>▼ ホームページに多言語機能を追加するなどし、中国、韓国、台湾などからの国外利用者の増加を図った。</p> <p>▼ 地下鉄真駒内駅からの無料送迎バスを運行した。</p> <p>▼ 企業の福利厚生施設としてリフト利用料が割引される契約を行った。</p> <p>▼ 施設の利用のきっかけづくりとして、各種イベント等で「無料ペアチケット」を配布し、利用を受入れた。</p> <p>▼ 近隣商店街や企業にポスターを掲出いただいたほか、教室の利用案内を町内会に回覧し、利用促進PRを行った。</p>	<p>また、札幌市と連携したウインタースポーツ塾を開催し、子どものウインタースポーツの動機づけを行うなど、スポーツ実施率の向上に寄与した。</p>									
<p>(6)付随業務</p>	<p>▽ 広報業務</p> <p>▼ ホームページ 「みんなの公共サイト運用ガイドライン」に基づきウェブアクセシビリティ方針を策定し、ホームページに公開した。また、平成30年3月に「JIS X 8341-3」の適合レベルAAの準拠を達成した。 なお、以下の取組みを推進し、高齢者や障がいのある方を含む全ての利用者が利用しやすいホームページとした。 【実施例】 ①全ページに「お問い合わせフォーム」を新設 ②職員採用情報ページの適時更新 ③カレンダーダウンロードサービスの実施 ④外国語自動翻訳機能の導入 ⑤色合いの変更機能の導入 ⑥地域情報発信スマートフォンアプリ「Domingo」への継続登録 【ホームページ訪問者数】 平成28年度訪問者数2,305,428件 平成29年度訪問者数2,309,991件</p>	<p>ホームページにおいては、JIS X 8341-3や障害者差別解消法を踏まえた適切な対応を行ったことにより、閲覧数が増加している。 また、広報さっぽろの電子化に伴う、新たな情報手段の活用と紙面媒体に代わる効果的な広報手段の検討など積極的に広報に取り組んでいる。 また、次年度には、教室の参加申込みがホームページ上から行えるよう機能の改善を予定している。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4"> <p>様々な広報媒体を活用するとともに、ウェブアクセシビリティ方針を作成し、ホームページの利便性お呼び機能向上に取り組む、利用者へのわかりやすい情報発信により訪問者数が増加したことは大いに評価できる。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>様々な広報媒体を活用するとともに、ウェブアクセシビリティ方針を作成し、ホームページの利便性お呼び機能向上に取り組む、利用者へのわかりやすい情報発信により訪問者数が増加したことは大いに評価できる。</p>			
A	B	C	D								
<p>様々な広報媒体を活用するとともに、ウェブアクセシビリティ方針を作成し、ホームページの利便性お呼び機能向上に取り組む、利用者へのわかりやすい情報発信により訪問者数が増加したことは大いに評価できる。</p>											

▼ 「広報さっぽろ」などの広報媒体及び「iさっぽろ」、「地デジデータ放送」など、各種メディアの活用により、積極的に事業等の情報を発信した。

〈情報発信事例〉

- ①2月に藤野野外スポーツ交流施設をはじめ、他の指定管理グループと合同で、「春からの教室受講生募集チラシ」を作成し、北海道新聞折込実施
- ②北海道新聞タブロイド紙「ハローゲレンデ」へのゲレンデ情報掲載
- ③日刊スポーツへのゲレンデオープン告知情報掲載(12月)
- ④ふりっぱーや地域ミニコミ誌への情報掲載
- ⑤北海道ランニングガイド2017への広告掲載
- ⑥広報さっぽろ及び札幌市情報アプリiさっぽろへの講習会募集情報等掲載
- ⑦各種イベント開催情報の報道機関に向けプレスリリース発信
- ⑧町内会回覧板の活用
- ⑨コンサドーレマッチデイプログラムへの広告掲出(5回)
- ⑩広報誌「ヘルス&スポーツライフ」の発行(4回)
- ⑪エコチル、スポチル(小学校直接配布)への広告掲載(4回)
- ⑫ヘルス&スポーツカレンダーの発行
- ⑬テレビ、ローカルFM局等各種メディアへの協力
- ⑭読売新聞や日刊スポーツ新聞などへ広告を掲出
- ⑮環境プラザホームページへの情報掲載とクリック募金へ参画(平成29年度累計60,845クリック)
- ⑯イベント開催時のPRブースの設置(6時間リレーマラソン2017 IN札幌ドーム)

▼ 札幌市の施策等に関する広報

代表団体が発行する広報誌「ヘルス&スポーツライフ」において、以下の特集記事を掲載しスポーツイベント開催の機運醸成に協力した。

- ①ラグビーワールドカップ2019札幌開催に向けて(vol.110 平成30年1月発行)
- ②冬季オリンピック・パラリンピックの招致に向けた協力(札幌市主催の平昌オリンピック・パラリンピックイベント開催情報vol.110 平成30年1月発行)
- ③代表団体のホームページにおいて、札幌市主催イベントの告知協力として「第3回知ろう! やってみよう! パラスポーツ」ほかを掲載した。

▼ 北海道の施策等に関する広報

「北海道みんなの日(道みんなの日)」の周知と定着(「道民体操(どさん子体操)」の紹介、vol.108 平成29年8月発行)

▼ 札幌市立大学と連携して制作したスポーツイラスト・チラシフォーマットを活用して各施設で配布する印刷物を作製し、スポーツ施設の一貫したイメージを市民へ浸透させた。

また、同大学の教員を講師に招き、各種事業のマーケティングに関する職員向けワークショップを実施した。

▼ 募集要項などの利用者向け印刷物は、UDフォントを積極的に使用、札幌市の広報に関する色のガイドラインを参考にした配色、必要に応じたルビなど、ユニバーサルデザインを推進し、視認性を高めることにより、見やすく正確に情報が伝わるよう徹底した。

札幌市のスポーツ・健康づくり活動の支援に係る施策に関する広報については、積極的に協力し、イベントなどの成功に大きく寄与した。また、「北海道みんなの日」の制定にあたり、代表団体が発行する広報誌に掲載するなど、積極的に協力した。

▽ 引継ぎ業務

(前回から継続指定のため、引継業務なし)

▽ その他管理運營業務に付随する一切の業務

▼ ラグビーワールドカップ2019札幌開催にあたり、機運を高めるための広報協力をを行った。

①代表団体の広報誌「ヘルス&スポーツライフvol.110(平成30年1月発行)においてラグビーワールドカップ特集記事を掲載

▼ 冬季オリンピック・パラリンピックの招致に向けた協力
冬季オリンピック・パラリンピックの機運を高めるための広報協力をを行った。

①ロビーにおいて関連動画を放映

②招致関連庁内通信の職員供覧

③招致関連印刷物の館内配架

④招致ポスター掲示協力

⑤広報誌「ヘルス&スポーツライフvol.110(平成30年1月発行)において、札幌市主催の平昌オリンピック・パラリンピックイベント開催情報を掲載

⑥招致関連フォーラム等への職員参加

⑦札幌招致期成会への参画

▼ 「さっぽろグローバルスポーツコミッション」に継続参画し、国内外への国際都市札幌の魅力を発信し、国際大会や事前合宿等の誘致活動に協力した。

▼ 札幌市スポーツ局スポーツ部に正規職員1名を研修職員として派遣し、「スポーツを通じたまちづくりの推進」、「障がい者スポーツの普及促進」、「大規模スポーツ大会の運営ノウハウの蓄積」などを目的として、札幌市と代表団体の取組みの共有を進めた。

▼ 一般財団法人札幌市体育協会に正規職員1名を派遣し、加盟競技団体との連携を強化、競技・生涯スポーツと一元化を図った施設の管理運営を行った。

ラグビーワールドカップ2019札幌開催に向けては、札幌市の担当課と積極的に調整を進め、大会の受入れ態勢の準備のみならず、広報誌やホームページを活用するなど、広報PRに大きく協力した。また、冬季オリンピック・パラリンピックの招致においても、全面的に協力し、札幌市と一体となり機運を高めるための取組みを推進した。

札幌市が進めるスポーツの国際大会や誘致活動に係る広報PRにご協力いただいている。

2 自主事業その他

▽ 自主事業

▼ 自主事業実施状況

区分	事業数(事業)		参加者数(人)	
	H28	H29	H28	H29
一般事業	136	102	4,964	3,837
スクール事業	1	1	12	20
大会	4	3	154	116
合計	141	106	5,130	3,973

地域事業	6	4	1,600	1,430
------	---	---	-------	-------

※実施状況は別添3のとおり

施設の設置目的と目指す成果の達成に向けた取組みを補完するため、季節に応じた多様なプログラムの教室や大会、イベント、地域コミュニティ支援事業を実施し、市民の健康増進とスポーツ実施率の向上に取組んだ。

A	B	C	D
供用期間が変動的であり、安定した事業数・参加者数を確保することが困難な部分もあるが、教室等の実施により、市民がスポーツを楽しむきっかけ作りに貢献している。			

▼ 平成29年度はリフト改修工事に伴う、夏期間の開放エリアの制限・縮小や冬期間の供用開始期間が雪不足から12月28日からと大幅な遅れがあったため、外部的な要因により十分な事業数が実施できなかった。

特に毎年、冬休み期間に開催する子どもを対象としたスキー・スノーボードの短期教室が中止になったことから、大幅な利用者減少の要因となっているが、当初計画した事業の中止にあっては、申込者に対し、受講料の返金など適切な対応を行った。

▼ 北海道コンサドーレ札幌と協働で子どもの体力向上を目的とした多種目体験型の通年スクールを実施した。

(主なプログラム)

・サッカー、デイキャンプ、ボート、ゴルフ、体操、フロアボール、カーリング、スポーツチャンバラ、フットサル、スキー、スノーボード等

▼ コアハウスでフィットネスなどの教室開催し、施設を有効活用しながら通年で開放した。

▼ 夏期間は、スポーツレクリエーション用具のレンタルを実施した。特にワンコインで用具が使い放題のスポーツバイキングは好評を得た。

また、各用具の使用方法は職員が指導にあたった。

▼ リフト改修工事に伴い、芝生広場の開放にあたっては、エリアが制限されたが、利用者の安全に配慮した注意喚起等を行った。

併せて、子ども用のキッズランドを開放したほか、キッチンフィールドを開放し、家族連れの利用促進を図った。

▼ 冬期間は、SAJ(全日本スキー連盟)及びJSBA(日本スノーボード)公認のスキー・スノーボード各種スクールや、検定等を実施した。初めての幼児クラスからデモチーム、プライベート・マンツーマンレッスンなど幅広い世代と多様なレベルに応じたプログラムを提供した。

▼ スキー上級者から要望が多い「テクニカルプライズテスト」を実施し、スキー愛好者の競技力向上を図った。

▼ 札幌リ्यूージュ連盟と連携して体験会を実施し、同種目の普及と底辺拡大を図った。

▼ 南陵高等学校を始めとする施設近隣の小・中学校、高校、関係団体と連携して、地域の活性化を図るため、秋まつりを開催し、300人の来場があった。

▼ スキー愛好家を対象に、親睦・交流を目的としたマスターズカップ大会を開催した。

また、子どもたちの競技会参加のきっかけづくりとして、ジュニアスキー技術選手権大会を開催した。

併せて、障がい者のウインタースポーツ活動の場として、ハンディキャップスキー・チェアスキー大会を開催するなど、市民の目的に応じた多様な大会を開催した。

▼ スキー場のクローズに合わせて、ウインターレクリエーションや各種体験会、サブイベントなど、冬期間の利用者に感謝の気持ちを込め、フェスティバルを開催し、800人の来場があった。

また、利用者サービスと利便性の向上を図るため、スキー、スノーボード用品のレンタルや売店設置、レストランの営業など、行政財産の目的外使用申請手続きを適正に行い実施した。併せて、近隣の地域に出向いたノルディックウーキング体験会など、拠点施設としての機能を拡大し、市民のスポーツ・健康づくり活動を支える事業を実施した。併せて、新たなマーケティング分析により、人口分布に合わせた効果的なPR手法の導入や全市民的な新聞折込みチラシを定期的に発行するなど、教室事業にとどまらず、施設の利用案内の周知を図った。

なお、スキースクールにおいて過去にコース外滑走を行っていた事実が判明したことについて、この結果を真摯に受け止め、今後は指導員への指示だけでなく、現場の状況を把握するとともに、適正に実施されていることを確認する必要があると考える。SAJの規程の改正等とともに、ルールに従い、適切な管理運営に努めてほしい。

- ▼ 行政機関や地域団体からの依頼を受けて、施設外の公園や緑地を会場として、ノルディックウォーキングやスノーシューなどの体験会を実施した。
- ▼ 教室、大会事業等において、募集ごとに要項、ポスターを作成するとともに、新聞折込チラシ、ホームページなど、広く市民の目に触れる方法で周知、参加の機会を提供した。また、新たな取組みとして市内全域に配布されるフリーペーパーに募集情報を掲載し、幅広い年齢層を対象とした広報を展開した。
- ▼ 自主財源で購入したエリアマーケティングソフトを活用して、施設周辺の人口分布などを国勢調査データを基に調査分析し、市内全域にスポーツ・健康教室の情報が行き届くよう、教室募集時の広報活動を充実させた。
- ▼ 札幌マラソンにおいて、職員が交通規制の各要所などに配備するなど大会役員として従事し、札幌市が主催する全市的なスポーツ大会の円滑な運営に貢献した。
- ▼ 利用者サービス向上とスポーツ活動中の水分補給のため、各施設内の適所に自動販売機を設置した。
- ▼ 冬期間は、スキー、スノーボード用品、ウェアなどのレンタルコーナー及び売店を開設し、市民の気軽な利用を促進した。
- ▼ 冬期間、利用者の利便性とサービス向上のため、関係各所に適正な届出を行い、レストランを営業した。
多彩なメニューを安価に提供することで利用者間のコミュニケーション促進を図った。
- ▼ 販売・設置に関する行政財産の目的外使用申請の手続きを適正に行うとともに、札幌市が定める使用料を支払った。
- ▼ 日本スポーツボランティアネットワークに加盟し、スポーツボランティアリーダーライセンス更新講習を開催し、ボランティア活動の普及に寄与した。
- ▼ 2020東京五輪・パラリンピックに係り、日本国政府が推進するスポーツを通じた国際貢献事業である「SPORT FOR TOMORROW」のコンソーシアム会員に登録し、札幌国際スキーマラソンにおける海外選手の参加と選手交歓会において国内・海外選手の交流を行ったほか、「外国人向けの水泳ワンポイントレッスン」「ワールドスポーツフェスティバル」などを実施し、外国人との交流を推進した。また、開発途上国のスポーツ振興のために、代表団体が主催する講習会で使用したフットサルボールやテニスボールなどのスポーツ用品を提供協力した。
- ▼ 教室、大会・イベント等の自主事業参加者に事故・怪我が発生した場合は、施設管理の瑕疵に伴う施設賠償責任保険と併せて、当財団独自のお見舞い制度(傷害見舞金給付事業)を適用する体制を整備した。(入院:日額1,500円、通院:日額1,000円)
- ▼ 自主事業の収支については、指定管理業務に関する収支と区分して経理し、さらに教室、イベントなどの事業部門と販売などの収益部門で区分した。
また、明確に区分できない人件費や本部機能などの管理経費については、各事業の収益規模に応じて適正に配分して経理した。

▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等

【市内企業等の活用】

▼ 物品購入・修繕・役務契約等は、特殊なものを除き、札幌市登録事業者を中心に約83.0%を市内企業へ発注した。

【福祉施策への配慮】

▼ 障がい者の雇用促進に積極的に取り組み、法定雇用率2.0%を超える2.27%の障がい者を雇用した(H30.3月末時点)。

▼ 総務課職員2名が「障害者職業生活相談員資格認定講習」を終了し、職業生活全般における相談・指導を行う体制を整えた。

▼ 市内の障がい者就労施設や元気ジョブアウトソーシングセンター等の活用を促し、弁当、チラシ印刷、資源回収などの発注を推進した。

▼ コンソーシアムで策定した「障がいのある方への配慮のガイドライン」に沿った施設の利用環境の整備を行い、個人利用、専用利用、自主事業の各利用形態において、平等な利用機会を提供した。

▼ 施設利用料においては札幌市体育施設使用料減免要綱に基づき、利用料金の適正な減免手続きを行うとともに、障がいのある方及び高齢者(65歳以上)の方の自主事業料金(教室受講料)については一般料金から減額を行い、参加の機会を拡大した。

▼ 一般社団法人札幌市障がい者スポーツ協会の役員(理事)、専門部会委員に代表団体の理事長、正規職員が就任し、障がい者のスポーツ環境整備に協力した。
また、札幌市障がい者スポーツの普及促進のあり方に関する検討会議に参画した。

▼ 特別支援学校やバイスキーの利用を促進し、障がい者に配慮したリフトの運行等の施設運営を行った。
また、ハンディキャップスキー大会を主催し、障がい者の利用を促進した。

▼ 代表団体で新たに職員4名が障がい者初級スポーツ指導員の資格を取得し、計15名の有資格者が各障がい者スポーツ団体が運営する普及事業に携わった。

特殊な条件の物件を除き、札幌市登録事業者への発注を基本とし、市内企業の活用に大きく貢献した。
障がい者の雇用に関して積極的な取り組みにより、要求水準以上の雇用率となったほか、札幌市の障がい者スポーツのあり方検討会議に参画するなどし、スポーツ施設における障がい者スポーツの事業実施や開放形態に関して検討を行うなど積極的な取り組みを行った。

継続して市内企業を積極的に活用するとともに、障がい者雇用率の達成、障がい者就労施設の活用等、福祉施策に十分配慮しているものと判断できる。

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

実施方法	実施期間:平成30年1月10日～1月16日 実施方法:選択肢形式の設問、一部自由記述式の質問紙調査。調査時間帯を3区分(午前・午後・夜間)に設定し対象者年齢区分と性別の均等性を考慮しながら受付付近にて直接利用者に協力を依頼する方法で調査を実施した。 回答者数:102名
結果概要	【満足度調査結果概要】 結果は市の定める目標水準(80%)に対し、総合満足度100.0%、接遇満足度100.0%と大幅に上まっており、利用者からの高い満足度を得ている。
利用者からの意見・要望とその対応	【調査項目】その他 いつも楽しく利用させてもらってます。ありがとうございます。

※その他アンケート調査結果は別添4のとおり

アンケート結果は、市の定める目標水準(80%)に対し、総合満足度、接遇満足度ともに100%となっており、利用者が高い満足度をもって利用していることがわかる。
 また、利用者からの、ご意見・要望についても、お礼やお褒めの言葉が大半であった。

A	B	C	D
総合満足度及び接遇満足度ともに90%以上を維持しており、適正な施設運営が行われているものと判断できる。 今後も利用者の声を把握した施設運営に期待する。			

4 収支状況

▽ 収支				税込(千円)				
項目	H29計画	H29決算	差(決算-計画)		A	B	C	D
収入	221,639	229,693	8,054	冬期のスキー場オープンが例年より2週間程度以上遅れたため、利用料収入の大幅な減収が予想された。しかしながら、1月以降、シーズン券の販売が好調に推移したため、減収は改善され、結果として全体の収入は計画を上回った。 また、支出はスキー場の準備に関する経費の削減等は難しく、効率的な業務を実施したが、計画を上回った。 併せて、収支が計画を下回ったことから、利益還元の内容を変更し、環境配慮への取組みにつながる内容とした。	効率的な施設運営により、計画を上回る収入となったことは評価できる。 今後も安定した収入確保及び更なる経費削減に期待するとともに、利用者のニーズを踏まえた利益還元をお願いしたい。			
指定管理業務収入	191,009	198,518	7,509					
指定管理費	117,772	117,909	137					
利用料金	73,237	71,067	▲ 2,170					
その他	0	9,542	9,542					
自主事業収入	30,630	31,175	545					
支出	216,021	227,973	11,952					
指定管理業務支出	189,564	201,128	11,564					
自主事業支出	26,457	26,845	388					
収入-支出	5,618	1,720	▲ 3,898					
利益還元	12,474	2,808	▲ 9,666					
法人税等	182	468	286					
純利益	▲ 7,038	▲ 1,556	5,482					

▽ 説明

- ▼ 利用料金収入は、12月の雪不足によるスキー場オープン延期のため、利用料金収入が計画を下回った。
- ▼ 指定管理業務支出は、施設修繕費などの増加により、計画を上回った。
- ▼ 利益還元は、当初計画を見直し、コアハウス照明のLED化を行った。(2,808千円)

<確認項目> ※評価項目ではありません。

<p>▽ 安定経営能力の維持</p> <p>指定管理事業及び各種自主事業の実施により、安定的・継続的に収益を確保している。 また、流動比率が177.1%、自己資本比率は47.8%となっており、安定的な経営に資する財源を有している。</p>		適	不適
<p>▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応</p> <p>個人情報、財団の「保護方針」及び保護に関する規程及び特定個人情報取扱規程に基づき、OJT研修を通じて各職員へ取扱いの徹底を図るとともに、プライバシーポリシーの改定を行いホームページ及び各種申込書等にて明示し、適切に個人情報を取扱った。情報公開条例等に関しても、指定管理者としての役割や義務を十分に認識し、すべて規定の手続きに基づき適切に対応した。 また、不当要求防止責任者の配置を推進し、暴力団の排除の推進に関する条例へ適切に対応した。</p>		適	不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>平成29年度は夏期にリフトの改修工事があり、芝生フィールドを活用した十分な開放ができなかったが、市民の安全に配慮した施設運営を行ったことは高く評価できる。</p> <p>また、冬期は降雪の関係から、スキー場のオープンが大幅に遅れたが、天候に応じていつもオープンできるよう万全の体制で準備を行った。また、この遅れにより、年度当初に計画していた事業を一部やむを得ず中止するなどの対応があったが、利用者に対して適切に対応した。</p> <p>来年度も、コンソーシアムの各団体が有するノウハウを十分に発揮し、安全・安心な利用者サービスを提供できるようにする。</p>	<p>来年度以降もリフトの改修工事があった場合は、平成29年度と同様に市民の安全に配慮した対応を行う。</p> <p>また、夏期の芝生フィールドを活用した新規事業を重点取組みとし、冬期のスキー場、リージュコースと併せて施設の利用促進を図っていく。</p> <p>また、適時、藤野野外スポーツ交流施設の管理運営マニュアルをはじめとする各種業務マニュアルを見直し、着実な業務を遂行できるよう体制を整備する。</p>

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>各施設の管理運営に関して、今まで蓄積してきた経験を活かし安定した管理経営を行っており、利用者満足度も高い水準を維持している。</p> <p>職員は、様々な研修や資格取得により専門的な知識を深めており、利用者ニーズを踏まえた更なるサービス向上や、効率的な運営管理に役立てている。</p> <p>今後も、応募時の提案内容の実現に向けた積極的な取組及び安全で安定した管理運営を期待する。</p>	<p>特に夏期の利用者数が少ないことから、夏期の施設利用促進に向けた取組の検討をお願いしたい。</p> <p>また、自主事業の管理運営の徹底をお願いしたい。</p>

施設利用実績 人数・件数（平成29年度）

◇藤野野外スポーツ交流施設

区分	平成29年度				平成28年度				前年比
	個人	専用		合計	個人	専用		合計	合計値 の比
	人数	件	人数	人数	人数	件	人数	人数	
藤野野外スポーツ交流施設(夏期)	5,835	0	0	5,835	8,705	0	0	8,705	67%
藤野野外スポーツ交流施設(冬期)	802,194	0	0	802,194	881,084	0	0	881,084	91%
藤野リュージュ競技場	0	32	878	878	0	51	698	698	126%
合計	808,029	32	878	808,907	889,789	51	698	890,487	91%

使用期間・供用時間延長の取組実績（平成29年度）

◇藤野野外スポーツ交流施設

1 自主事業

No.	施設名	事業名	種目	対象	期数	実施期間	曜日	実施時間	参加者数
1	藤野野外スポーツ交流施設	Fu'sハンディキャップスキー大会	スキー	小学生～一般	1	2/11	日	7:45～9:00	22
2		Fu'sマスターズカップ		一般	1	2/18	日	7:45～9:00	49
3		Fu's Jr. 技術選手権大会		小学生～高校生	1	2/25	日	7:30～9:00	46
合 計									117

2 市民開放

No.	施設名	事業名	区分	実施時間	実施時間	利用者数
1	藤野野外スポーツ交流施設	ヒルクライムラン	団体	11/5	8:30～9:00	106
2		自衛隊スキー選手権大会	団体	1/7	6:00～9:00	66
合 計						172

自主事業実施報告 教室・イベント等（平成29年度）

◇藤野野外スポーツ交流施設

施設名	一般事業		学校開放施設事業		通年スクール型事業		施設間合同事業		大会		合計		地域コミュニティ支援	
	事業数	参加者数	事業数	参加者数	事業数	参加者数	事業数	参加者数	事業数	参加者数	事業数	参加者数	事業数	参加者数
藤野野外スポーツ交流施設	102	3,837			1	20			3	116	106	3,973	4	1,430
合計	102	3,837			1	20			3	116	106	3,973	4	1,430

※一般事業：1年度を3～4期に分けて募集を行う教室等

学校開放施設事業：学校開放事業校を会場として開催する教室等

通年スクール型事業：1年度または1/2年度で募集を行う教室等

施設間合同事業：複数の施設または指定管理グループが連携して開催する事業等

大会：競技大会や交流会、体験イベントの事業等

地域コミュニティ支援事業：町内会のお祭りなど地域の活性化を目的として運営協力を行う事業等

利用者アンケート調査結果（平成29年度）

◇藤野野外スポーツ交流施設

1 アンケート調査実施概要

(1) 当財団ホームページお問い合わせフォーム：合計8件（意見1件、苦情2件、要望2件、問い合わせ3件）

(2) 施設内ご意見箱：0件

(3) 施設利用に関するアンケート調査実施状況

No.	名 称	時期	対象施設	対象者	回答数(件)
1	満足度調査	1/10～1/16	藤野野外スポーツ交流施設	施設利用者	102

2 アンケート調査の主な意見・要望等

No.	内 容	対 応
1	スノースケート（ビンディングのないボード）でリフト乗車させてほしい	安全面からリフト乗車ルールとして、足に固定した滑走用具を装着しないと乗車できないことを説明し、理解をいただいた
2	ゲレンデに小石がたくさん浮いている	パトロールの際に、小石に注意した巡回を強化した